

# 外国人児童生徒等の日本語能力に応じた初期指導プログラム例

## 初期指導プログラム例の活用の仕方(例)

**1** 生活や学習の状況、適応状況をはじめ、文部科学省が作成した「外国人児童生徒のためのJSL対話型アセスメントDLA」(以下、DLA)などにより、「言葉の力」を把握するなど、児童生徒等の実態を多角的に把握します。



DLA

### ★参考リンク

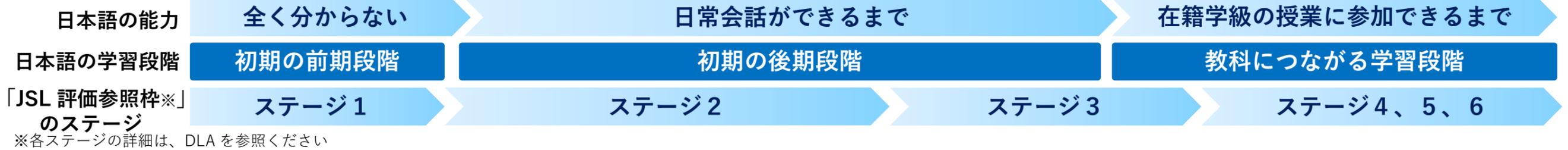
のリンク先を道教委Webページに掲載していますので参考としてください。



参考リンク



外国人児童生徒等の受入れ



### 日本語指導のプログラム例 (小学校低・中学年)

#### サバイバル日本語

挨拶や体調を伝える言葉、教科名や身の回りの物の名前などを知って使えるようにする。

#### 日本語基礎(発音、文字・表記、語彙、文型)

発音の練習、文字の習得、語彙を増やす、簡単な文型を学ぶ。学校への適応や教科の学習に参加するための基礎的な力を付ける。

#### 日本語と教科の統合学習 (JSLカリキュラム)

教科の学習内容を理解することと、日本語を学ぶことを組み合わせる学習する。

**2** DLAなどにより把握した「言葉の力」を基に、日本語指導のプログラムを効果的に組み合わせたコースを設計します。

**教科の補習** 在籍学級での学習内容を、先行して学習したり、復習したりする。

**3** 多言語翻訳システムやICT教材などを効果的に活用するなど、児童生徒等の実態に応じた日本語指導に取り組みます。

### 受入れ体制の整備例

#### 首長部局の対応例

- ①住民票の転入届等にかかわる事務手続きを行う。
- ②学齢期の子どもがいる場合、公立学校への編入希望の有無を保護者に確認する。

#### 教育委員会の対応例

- ①公立の学校へ編入する意志を改めて確認する。
- ②在留カード等で居住地等の確認をする。
- ③編入学にかかわる必要書類(「就学願」、「編入学願」等)を受理する。

#### ★参考リンク

- ・豊橋市教育委員会「外国人児童生徒教育資料」
- ・岐阜県教育委員会「外国人児童生徒の就学に係る書類」

### サバイバル日本語の指導プログラム例

◆「サバイバル日本語」は、日本の学校生活や社会生活を送る上で必要な知識や日本語を使って行動する力を身に付けるためのプログラムです。挨拶の言葉や具体的な場面で使う日本語表現を指導できるような内容となっています。

#### 指導方法例 「トイレ」

実際の場面を示し、そこで使用する日本語の語彙や表現を聞かせ、それをそのまま繰り返して言う練習をします。次に、応用できる場면을提示し、その表現を使う練習をします。文法の説明などは、基本的には行う必要はありません。表現も、その時の児童生徒の日本語の習得状況に応じて、例えば、「トイレ」、「トイレ、いい。」「トイレ、とってもいい。」「トイレにいてもいいですか。」などから、選択します。また、聞いて理解できるようになることが目的であれば、発話を求めず、「表情やジェスチャーで反応できればよい」という目標を設定することも考えられます。

#### ★参考リンク

- ・文部科学省「かすたねっと」
- ・JYLプロジェクト「こどもの日本語ライブラリ」
- ※「定住外国人の子どもの就学支援(虹の架け橋教室)事業」の一環として、年少者の日本語指導・支援等に必要の情報・学習資料等の提供を目的に開設されたサイトです。

### 日本語基礎の指導プログラム例

◆「日本語基礎」は、文字や文型など、日本語の基礎的な知識や技能を習得するためのプログラムです。日々の生活で浴びせられている日本語について、整理し、規則を学び、自分でも使えるようにするための学習ができるような内容となっています。

#### 文型指導例 「～に～があります(存在文)」

##### 【小学校前半(1～3年生)】

- ①導入  
教室にある物(机、いす、黒板、時計)について、場所と物の語彙を確認する。物がある場所を指示しながら、口頭で「壁に時計があります。」と文型を導入する。
- ②練習  
・導入した文型を、実物や絵で意味を確認しながら繰り返し発話する。  
・机、いす、黒板、時計などのカードを裏返しておいて、何があるのかを当てるクイズを行う。
- ③まとめ  
最後のクイズの内容を「～に～があります」という文型を利用して書き(2～3文)、その後、作った文を読む。

#### ★参考リンク

- ・文部科学省「かすたねっと」

### JSLカリキュラムの指導プログラム例

◆「JSLカリキュラム」は、教科と日本語を結び付けて指導するプログラムです。日本語を学ぶことと教科を学ぶ力を身に付けることが一つのカリキュラムとして構成されており、目標が、言語面と内容面の2つの面からなっています。

#### 指導例(抜粋) 「形(長方形と正方形)」

- 〔活動を通して学ぶ言語表現〕
- ・分類して考える「～と～が仲間です」
  - ・命名する「これを～といいます」
  - ・知識を確認する「～は何だと思えますか」 など
- ①導入、学習課題をつかむ  
三角形、四角形、長方形、正方形、直角三角形を仲間分けする。まず、自由に分け、次に2つのグループに分ける。「どれとどれが仲間ですか。」「～だと思えます。」「」
  - ②2つのグループの特徴を調べる  
どこに目をつけるかを考える。「辺」「頂点」という言葉を知り、辺や頂点の数で弁別した仲間を表す。「これを『辺』『頂点』といいます。」

#### ★参考リンク

- ・文部科学省「学校教育におけるJSLカリキュラムの開発について(最終報告)」小学校編
- ・文部科学省「学校教育におけるJSLカリキュラム中学校編」